錦江に生きる

さんじゅうよにん目

東郷昭人さん（富田自治会）

「美味しいお茶を飲んで欲しい」と願いを込めながらお茶を淹れる昭人さん

このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
第34回目は、富田自治会の東郷昭人さんです。

鹿児島市内で行われた「半島隅くじら元気市」でお茶の試飲販売をしていた東郷昭人さんを訪ねると、元気よく「いらっしゃいませ」と声をかけてくれた。

忙しく働く昭人さんの邪魔をするかのように質問を繰り返したが昭人さんはいやな顔ひとつせず応えてくれた。

昭人さんは、親子二代でお茶を生産している農家の二代目だという。農家の長男に生まれたからには自分もお茶を作るんだと、幼い頃から思っていたと話した。

昭人さんは、農業大学校を卒業後、茶市場で修業を積み、21歳で実家に戻った。「今でも、まだまだ修行中です。」と照れる昭人さんだが、7年目で一つの目標だった規模拡大に成功した。次の目標を訊ねると、「規模拡大も、成功したかどうかはこれからです。父の力も大きいですしね。」と謙遜した。そして「量を作ったからと言って、広大な土地に作っている他町の農家には物理的に追い付かない。だから、品質で勝負したい。今は、より良いお茶を作る為に頑張っています。」と力強く答えた。また、昭人さんは肝属地区の茶業青年部や町農業青年部の理事もしており、地域の仲間たちと明日の農業を盛り上げている。もちろん、地域活動などにも積極的に参加している昭人さんは「富田に残ったのも、地元が好きだから若者が少ないこの場所を離れたら、せっかく地域の人たちが拓いた農地もなにもかも荒れてしまう。僕は、富田をずっとずっと今のままで残していきたいんです。」と、訴えるように話した。

昭人さんの趣味は、バレーボールとルアーフィッシング。しかし、今は愛娘の顔を見るのがなによりの楽しみで、奥さんと愛娘に癒される毎日だという。

最後に一言お願いすると、照れくさいのですが、と前置きし、「嫁に『ありがとう』と言いたいです。富田みたいに本当に畑と山しかない処に文句ひとつ言わず嫁いでくれて本当に感謝してます。携帯電話も繋がらないのに・・・。」と話した。続けて、「一番茶の時期はかなり体力を使うけど、一緒にこれからずっと頑張って行こう。富田を守っていこう。」と顔を赤くした。

昭人さんは、田代が、富田が大好きで誰よりも地元の将来を考えている熱い男だった。

編集後記

●三月は「去る」と言われるようにあっと言う間に月日が過ぎるような気がします。月日が早く過ぎる割には、やらないといけない事はなかなかさばけないように感じるのはわたしだけでしょうか？また、三月は「別れ」の季節でもあります。退職・転勤、子ども達は卒業・転校といろいろな別れがあります。寂しかったり、悲しかったりとつらい感情が湧きますが、出会えたことへの感謝や喜びの気持ちを持っていれば、また、いつか再会できるのではないかと感じます。そして、四月は出会いの季節です。今までの出会いも、これからの出会いも全てが財産になることでしょう。

●鹿児島市内で行われた「半島隅くじら元気市」に販売員として行ってきました。見た目がさわやかだからでしょうか、私のブースは飛ぶように商品が売れ、錦江町のPRも十分に出来て、完全燃焼の二日間でした。また、お客と商品や、錦江町の話をすることで、消費者のニーズなど生の声を聞くことが出来たので今後の仕事に生かしていきたいと思います。

■発　行　錦江町役場
■編　集　企画課
〒893-2392
鹿児島県肝属郡錦江町城元963
☎ 0994-22-3032
FAX 0994-22-1951
■錦江町ホームページアドレス
http://www.town.kinko.lg.jp

PRINTED WITH SOYINK
Trademark of American Soybean Association